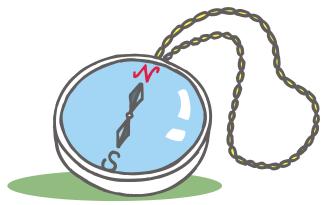


羅針盤

第36号

令和3年（2021年）2月15日（月）



◆ 「ノミの法則」

令和3年（2021年）、今年の干支（えと）は、皆さんもよく知っている通り、「丑年（うしとし）」で、動物にあてはめると牛になります。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた動物でした。丑年は「耐える」「これから発展する前触れ（芽が出る）」といった年になると言われており、また、「先を急がず目の前のことを見実に進めることができが将来の成功につながっていく」とも言われているそうです。「牛の歩みも千里」という諺（ことわざ）があり、牛のような速度でゆっくりと進んでいても、いずれは千里（約3900km）にもなるように、努力を怠らなければ、大きな成果を上げることができます。努力を怠らない、決して諦めない、自分で限界を決めてしまわない、言葉にすることは簡単でも実行するのはなかなか難しいことです。今日は「ノミの法則」というお話を紹介したいと思います。犬や猫に寄生するノミを皆さんもよく知っていると思います。ノミは体長が1mm以下のものから、大きくて9mm程度といった非常に小さな虫です。翅（はね）は無いのですが、後ろ足がとても発達していて、その跳躍力（ジャンプする力）は、体長のおよそ150倍と言われています。体長が2mmのノミで、約30cmジャンプすることができます。オリンピック選手でも、自分の身長の2倍も跳べませんが、計算のうえでは、身長170cmの人が、30階建てのビルとほぼ同じ高さである東京都庁（240m位の高さがあります）を飛び越えることができる事になります。では、この跳躍力の優れたノミをガラスのコップに入れて透明な蓋（ふた）をかぶせてしまうとどうなると思いますか。ノミは、コップの中から逃げ出そうとして、何度も何度も飛び上がり、その度に透明な蓋（ふた）にぶつかることを繰り返すことになります。しばらく時間をおいてから、透明な蓋をとるとどうなるでしょう。ノミはコップの高さを超えるようなジャンプをすることができなくなってしまいます。最初は何度も思い切りジャンプしていたノミは、何度もぶつかるうちに諦めてしまい、ジャンプする力を自ら抑えてしまい、蓋にぶつからない程度にしか跳ぶことができなくなるそうです。では、もう一度もとの高さまで跳ぶ力を取り戻すには、どうすればいいのでしょうか。それは、同じように跳ぶことができるノミと一緒にしてやることだそうです。跳べなくなってしまったノミは、跳ぶことができるノミの姿を見て、跳べるようになるそうです。ノミは自信を取り戻して、またチャレンジして、コップを飛び越えることができるようになるそうです。皆さんにも、同じようなことがあてはまる経験があるのではないでしょうか。努力を続けても結果に結びつかない状況が続くと、自分には無理だと思い込んで、自分で自分の限界を決めてしまい、諦めてしまうようなことはありませんか。何かに取り組む前から、「自分にはできない。難しい。」と決めつけて、やるべきことからも逃げてしまい、向き合うこともしないことがあります。皆さんの周りにはコップも蓋もありません。自分から勝手に壁をつくってしまうと、高く跳べるはずのことも跳ばないままで終わってしまうかもしれません。自分の限界を勝手に決めてしまうのではなく、自分の能力に蓋をすることがないよう、諦めずに努力を続け、大きく飛躍してくれること願っています。

